

平成31年度 各年次 努力目標及び具体策

《1 年次》

努力目標(評価の観点)	具体策
1. 社会へ出る準備としての高校生活を常に意識させ、基本的生活習慣を確立させる。	(1)校則を遵守させ、定められた服装・頭髪をさせる。
	(2)皆勤(精勤)を目標とさせ、安易な欠席・遅刻・早退をさせない。
2. 学習を第一義とし、積極的な姿勢で授業に臨ませ、家庭学習の励行に努めさせる。	(1)予習－授業－復習の学習習慣を定着させるため、教科との連携を密にする。また、家庭学習時間調査を常時行うことで生徒の実態把握に努める。
	(2)定期テストに早期かつ計画的に取り組ませる。また、単語テストを毎週実施するなど、日頃の小テスト等にも全力で取り組ませる。
3. 総合学科への理解を深めさせ、進路に対する意識を高める。	(1)「産業社会と人間」や種々の行事、情報提供等を通して、自己理解・職業理解に努めさせる。
	(2)適切な科目選択ができるよう進路サポートを活用し、進路目標を確立させる指導を行う。

《2 年次》

努力目標(評価の観点)	具体策
1. 中堅学年としての自覚を持たせ、堅実な学校生活を送らせる。	(1)大学等入試の新体制に備え、自ら考え、積極的に行動する態度を育成する。
	(2)自己を見つめることで、他者を敬愛する心を育み、良好な人間関係を築かせる。
2. 学習習慣を確立させ、目標にあわせた学力の養成とその向上をはかる。	(1)授業を中心に据えて予習・復習などの家庭学習を習慣化させる。授業や課題は小テストや定期テスト及び校外模試につながることを意識させる。
	(2)手帳を活用することで自己管理能力や課題に気付く能力を身につけさせ、主体的に学習に取り組む態度を育成する。
3. 進路意識を育み、進路目標を確立させるとともに、その実現に向け計画的に挑戦させる。	(1)進路情報の提供と進路学習により、社会的・職業的に求められる資質や能力を理解させ、進路目標を確立させる。
	(2)インターンシップ、オープンキャンパスなどの体験的な学習に積極的、計画的に参加し、それらの学習成果をプレゼンテーションさせる。

《3 年次》

努力目標(評価の観点)	具体策
1. 最高学年としての自覚を持たせ、堅実な学校生活を送らせる。	(1)生徒に目標を持たせ、その目標に向かい生徒自らが努力できるための具体的な環境づくり(指導体制構築)を実現する。
	(2)日常の挨拶、身だしなみ、ルール・マナーの遵守、期限や時間を守るなど、社会に出た際当たり前のように要求されることを徹底させる。
2. 生徒一人ひとりの学力の伸長に努め、個々の進路目標を実現させる。	(1)「進取創造」の校訓のもと、手帳を活用することで自己管理能力や課題に気付く能力を身につけさせ、自ら進んで計画的に学ぶ姿勢を身につけさせる。
	(2)進路情報の提供と進路学習により、社会的・職業的に求められる資質や能力を理解させ、進路目標を確立させる。
	(3)個人面談を繰り返し行うことで生徒の理解に努めるとともに、各教科各部(特に進路指導部)との連携により、組織的・計画的な指導により生徒の進路実現を支援する。